

氏名	山本 秀行 YAMAMOTO Hideyuki
所属	人間文化創成科学研究科文化科学系
職名	教授
学位	文学修士(1972 東京大学)
専門分野	西洋史学、ドイツ現代史、ヨーロッパ近代社会史
URL	
E-mail	rekishi@cc.ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

ナチズム
第三帝国
植民地
ナショナル・アイデンティティ
社会史

主要業績

論文 単著「ナチ人種主義再考」『お茶の水史学』54(2010) 111-162ページ

研究内容 / Research Pursuits

「人口問題」と「他者」という二つの視点からドイツ近現代史の見直しをすすめている。

本年度は、人口問題とナチスの人種政策とのかかわりについて、ヒムラーの演説を中心に検討し、その成果を「ナチ人種主義再考」として『お茶の水史学』に発表した。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

学部教育では、学生の文献検索、プレゼンテーションおよびレポート作成の能力育成に力を入れた。比較社会史では、「他者とのかかわりから見る（見えてくる）歴史」というテーマのもと、比較先史学コースの教員による授業のコーディネーターをつとめた。

演習では、ナチスの絶滅政策に関連して、Marc Mazower, *Hitler's Empire*, London, 2008と Peter Longerich, *The Unwritten Order*, Stroud, 2005を講読した。講義では、人口問題とナチズムの戦争との関連を考えた。

大学院では、西洋近現代史における「他者」にかかわる言説や、社会文化、政策などについて特論と演習をおこない、西洋中世史や日本近代史の学生などもふくむ院生の論文指導にあたった。

■ 研究計画

ナチス・ドイツの人種プロジェクトについては多岐にわたり、現在は複数の系列について、それぞれ史料と文献を収集し、調査している。またナチズム研究と東欧占領政策、植民地研究を統合した研究テーマを発展させることも大きな課題である。

■ メッセージ

お茶大で学ぶ歴史学のいいところは、暗記物ではないことです。

見えないものを、見えるようにすること、そのために、いろいろ工夫することが、歴史学の醍醐味のひとつです。

また、西洋史のスタッフには、ドイツ近現代史の僕のほかに、イギリス中世史の新井先生と、フランス近世史の安成先生がおります。お二人とも、いやといえない性格で、面倒見のよさには定評があります。3人のスタッフと3、4年生全員が参加する卒論指導のゼミは、毎回議論に花が咲き、時間を忘れる楽しいものです。4年生にとってはどうだかわかりませんが、ゼミのあと、近くのレストランで、ワインやビールかこんで、ひと息つくのも恒例となっています。